

【概要】

住宅ローン利用者の実態調査

【住宅ローン利用予定者調査(2022年10月調査)】

I 調査の概要

今後5年以内に住宅を取得する計画があり、かつ、住宅ローンを利用する予定がある方を対象とし、希望する住宅ローンの金利タイプ、住宅取得に向けた意識や行動などについて調査を実施し、その結果をとりまとめたものです。

なお、今回調査から住宅ローンの利用実態を踏まえ60歳代を追加しました。

(参考) 調査実施時期：2022年10月28日～11月8日、回答数：1,500件

II 調査結果の主なポイント

<> は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 利用予定の金利タイプでは、「変動型」が減少、「固定期間選択型」及び「全期間固定型」は増加 <p. 3>

- ・「変動型」：34.5% (2022年4月調査37.6%)
- ・「固定期間選択型」：35.7% (同34.7%)
- ・「全期間固定型」：29.7% (同27.7%)

2 今後1年間の住宅ローン金利見通しについて「現状よりも上昇する」が4割を超え、「見当がつかない」は減少 <p. 4>

<今後1年間の住宅ローン金利見通しについて(全体)>

- ・「現状よりも上昇する」：48.3% (2022年4月調査44.4%)
- ・「ほとんど変わらない」：27.1% (同27.6%)
- ・「現状よりも低下する」：8.4% (同8.5%)
- ・「見当がつかない」：16.1% (同19.5%)

3 住宅の買い時意識では、前回よりも「買い時だと思う」が減少し、「買い時だと思わない」が増加 <p. 6、p. 7>

<今(今後1年程度)の住宅の買い時意識>

- ・「分からない」：41.3% (2022年4月調査41.8%)
- ・「買い時だと思う」：26.7% (同27.1%)
- ・「買い時だと思わない」：32.0% (同31.1%)

<買い時だと思ふ理由>

- ・「住宅ローン金利が低水準だから」：71.0% (2022年4月調査69.3%)
- ・「税制のメリットが大きいから」：28.8% (同31.4%)
- ・「住宅価格が安くなったから」：22.5% (同19.4%)
- ・「金融緩和政策が継続しているから」：20.3% (同15.7%)
- ・「住宅取得促進策が実施されているから」：14.5% (同16.2%)
- ・「その他」：3.0% (同4.4%)